令和８年度山口県産業労働懇話会の概要について

１　開催日時

令和８年１１月６日（金）１３：３０～１５：００

２　開催場所

県庁４階 共用第５会議室

３　出席者

労働者代表　　長山委員、大塚委員、倉重委員、田中委員
使用者代表　　宮川委員、中野委員、近藤委員
学識経験者　　山根委員、齋藤委員、山野上委員、別宮委員
（以上１５名中１１名出席）

４　内容

「県外人材の県内就職促進について」をテーマとして意見交換を行った。

≪主な意見等≫

・賃上げ局面で高賃金へ人材が流れ、定着せず移動する方も多い。こうした賃金の問題がある一方で、よく聞く声に山口県での子育てのしやすさがある。一旦県外に出ても帰ってくれば住みやすく、仕事しやすいところが多いと聞くため、その強みをどう発信していくか。
・人材確保において、賃金と労働環境は重要である。山口県の賃金は、ここ3年で賃上げ率や基準賃金を見ても改善してきている。 また、 人材確保・育成には、労働環境の整備も重要であり、長時間労働の是正による豊かな生活時間と適正な労働時間の確保。さらに、教育訓練の充実は、労働者の技能向上やキャリア形成のみならず企業の持続的発展にもつながる。
・山口県は製造業が多いこともあり、女性組合員・正社員が少ない。元々男性がメインの企業が多く、女性用トイレや更衣室等の環境整備が追い付かず、配置が限定されることがあるため、県外企業を探す方もいる。企業の職場環境整備により、女性の県内就職・定着につながると思う。
・人口減少で人材の確保が難しいことは、どこも課題としている。Ｕターンには就職に加え、根本的に家族や故郷への愛着、地域への責任感が大事だと考えており、教育の面からも小・中学生の頃から故郷を思う気持ちを少しずつ醸成できればと思う。
・魅力向上や職場環境整備、人材育成など課題は多い中での県の取組は評価できる。県内外やＵターン・若者向けイベント等に積極的に参加し、一度県外に出た方や若い方を呼び戻せるせるようにしっかりとPRして魅力を伝えたい。
・都市部と県内の若者の賃金差は想定以上に大きく、どのように県内企業を選んでもらうのかが課題。県事業の賃上げ奨励金を活用し、初任給引上げへ給与体系の整備に取り組んでいるが、全国規模の企業の初任給が上がるペースが速く、追随が難しいと感じている。働きやすさも重要だと思うが、住みやすさも併せて、よりPRしていけるとよいのではないか。
・中小企業で、世界的な研究機関向けに装置を納入している町工場に話を聞く機会があった。給料水準が高いわけではないが、企業の取組やその企業でしかできないことに魅力を感じて就職を希望する方も多く、毎年採用に困っていないとのことだった。こうした好事例があれば情

報共有いただきたい。また、AI 等を活用し、効果的に企業の魅力を発信できればよいと思う。
・県外に進学した学生等に向けて、山口県の企業情報を常々インプットし、就職時期に候補に入れてもらえるような取り組みをできればいいと考える。また、各企業において、人材確保に向けたターゲッティングは重要であるが、行政側も同様に施策におけるターゲッティングを考える必要があるのではないか。
・近年不登校の子供が多くなっている。不登校は長期化しやすく、親が仕事を休む・退職する事態が生じることもあり、祖父母等の支援がない核家族ほど深刻である。不登校の子供の増加傾向を踏まえて、働く親が休みやすい介護休暇のようなものがあればと感じる。
・出産後は育休を長期で取れる一方、流産・死産後は休暇が短く、流産では早期復職もあり心身の回復が追いつかない。喪失感やトラウマで退職する例もあるため、十分に休める制度整備と実態周知、職場の理解促進が必要である。
・Uターン就職フェア等を実施されているが、参加者が少ないと感じる。効率面から見て、続ける必要があるか疑問な部分がある。学生が集まらないので即戦力の中途採用に力を入れる企業もある。
・女子学生に話を伺うと、都市部のエンターテイメントや職種の多さに魅力を感じて就職を決める傾向がみられる。特に山口県は、産業構造上、製造業が強い一方で第3次産業の集積が弱い面があり、県外へ人材が流出しやすい。エンターテイメントや希望職種の確保を地方部で構築するには限界があるため、子育て環境がいいことや暮らしやすさといった利点を活かし 30、40 代をターゲットに県内就職を促すこともよいのではないかと思う。